

第1回進路保護者会

2020. 7. 2.

京都市立洛水中学校

I . 中学校卒業後の進路

進学

全日制高等学校	(3年)
高等専門学校	(5年, 5年半)
定時制高等学校	(3年, 4年)
通信制高等学校	(3年も可)
高等専修学校	(3年)
総合支援学校	(3年)

各種学校

高等専門学校 (旧職訓)

就職・家業従事

家事



A. 全日制公立高等学校 普通科

(1) 1つの通学圏

京都市内・乙訓地区で1つの通学圏

公立高校の普通科は、21校すべてから選択・志願可

(2) 普通科のコースについて

(3) 普通科の専門的なコース(専攻)について

- ・ スポーツ総合専攻 ・ ・ 鳥羽 ・ 西城陽 ・ 久御山 ・ 綾部
- ・ 美術 ・ 工芸専攻 ・ ・ ・ 亀岡

京都市・乙訓地域の公立入試制度（概要）

- ① 全日制普通科の「**類・類型制度**」を廃止
 - 「普通科」として1つに
- ② **通学区域の統合**
 - 南北2通学圏から1通学圏に
- ③ **受検機会の複数化**
 - 前期・中期・後期の3つの受検機会
- ④ 「**総合選抜制度**」の廃止
 - 「**単独選抜制度**」の導入

① 「普通科」として1つに

- 普通科Ⅰ類・Ⅱ類を廃止し、普通科に統合
- 合格後に各コースを希望や学力状況に応じて選択
- 学年進級時などのコース変更にも柔軟に対応
- 第Ⅲ類は専門的なコースとして存続
 - 「スポーツ総合専攻」として募集
- 紫野Ⅲ類(英文系)は専門学科として独立
 - 専門学科「アカデミア」として新規募集
- 日吉ヶ丘「国際コミュニケーション」募集停止

② 2通学区から1通学区へ

■ 京都市北・南通学区の統合

□ →「京都市・乙訓通学区」としてまとめる。

■ 希望できる普通科高校が2倍に

□ 北通学区11校＋南通学区10校＝21校

③ 複数の受検機会を確保

- **前期選抜** (すべての学科・コースで実施)
 - 特色・推薦・適正を廃止し、前期選抜に統一
 - 学校・学科の特色に応じた多元的な評価尺度で選抜
 - 一部専門学科では、前期で100%の定員を募集
 - 特別入学者選抜は従来通り実施
- **中期選抜** (従来の一般選抜)
 - 実施校はすべて共通の統一テスト
- **後期選抜** (従来の2次募集)
 - 前期・中期で相当数の欠員がある場合に実施

京都市立京都奏和高等学校

令和3年4月スタート（伏見工業敷地内）

- ▶ 定時制 4部制（昼間・夜間）
（単位制）1クラス20名程度
修業年限3年間と4年間を選択
- ▶ 前期選抜, 特別入学者選抜
- ▶ 通学区域 京都府内全域
- ▶ 募集定員 80名
- ▶ 検査内容 検査A（学力検査）検査B（個人面接）

京都奏和高校が学んでほしい生徒像とは

- ▶ 様々な「困り」を抱え、義務教育や高校等で学びのつまずきを経験しながらも、就職や進学を見据え、学習意欲を持って、学習支援や「学び直し」を求めている。
- 「毎日」通う学校
- 「集団」に重きを置いた教育活動
- 「基礎・基本」の学習が中心

その他

学び直し、ビジテック（ビジネス・ものづくりの実習）、キャリア教育、奏和タイム（部活動・生徒会・地域交流・校内居場所カフェ）、ICTの活用、服装（標準服と私服の選択制）、食事（食堂あり）等

④ 総合選抜制度の廃止→単独選抜制度の導入

- 一般選抜の**普通科 I 類**で行っていた「総合選抜制度」が**廃止**され、各高校が学科ごとに合格者を決定する。
- **メリット**
 - 希望の学校だけ受検できる
 - 不本意入学が無くなる
- **デメリット**
 - 人気校は難易度が上がる
 - 定員が無駄になる可能性がある

前期選抜の詳細

■ 実施時期

- 2月中旬

■ 実施校

- 全ての高校・学科

(普通科・職業に関する専門学科・その他の専門学科)

■ 志願できる学校数

- 1校1学科のみ

前期選抜の募集人数

- 普通科
 - 募集定員の30%
- 職業に関する専門学科
 - 募集定員の70%
- その他の専門学科（スポーツ総合専攻を含む）
 - 募集定員の100%
 - ※基本的に中期選抜での募集なし

前期の選抜方法

■ 単独選抜

- 各高校が学科ごとに合格者を決定

■ 選抜パターン

- A、B、C方式から各校が学科ごとに2つまで選択可能

- A方式 → 学力検査＋報告書＋面接作文

- B方式 → 報告書＋面接作文＋活動実績報告書

- C方式 → 学力検査＋作文面接＋報告書＋実技検査

■ 各校の詳しい検査の詳細は、後日配布

中期選抜の詳細

■ 実施時期

- 3月上旬

■ 実施校

- 職業に関する専門学科 (定員の30%)
- 普通科 (定員の70%)

■ 志望できる学校数

- 第1希望(第1順位・第2順位) 2校
- 第2希望 1校
- 計 3校まで記入可能

学力検査と報告書の扱い

- 共通学力検査(5教科)
 - 全ての学校が共通の問題を実施
 - 各40点×5教科=200点満点
- 報告書(3年間9教科の評定)中期選抜の場合
 - 5教科=5点×5教科×3年間=75点満点
 - 4教科=5点×2倍×4教科×3年間=120点
 - 全教科の評定合計(3年間)=195点満点

中期選抜の合格者判定方法

■ 第1希望 第1順位

- 第1段階選抜で、残りの募集定員のうち90%を合計の得点が高い者から合格とする。

■ 第1希望 第2順位

- 第1段階選抜で、合格とならなかった者で第2順位の希望者も合わせて合否判断し、定員を埋める。

■ 第2希望

- 第1希望で定員を充足できなかった場合のみ、第2希望が有効となる。

後期選抜について

■ 実施時期

- 3月下旬

■ 実施校

- 前期・中期総合選抜実施後に、なお相当の欠員がある高校（中期選抜発表時に実施校を公表）

■ 選抜方法

- 全校共通の学力検査（国数英）＋面接＋報告書
- 各高校が学科ごとに合格者を決定

■ 必ず実施するとは限らない！

私立高校の入試について

■ 実施時期

- 京阪神は、昨年度は2月10日～でした。
- 他府県(滋賀県・奈良県)は、受験日が異なります。

■ 受験の仕方

□ 推薦・専願

- → 学校によって求められる成績の基準がある。

□ 併願

- → 推薦や専願より厳しい基準となる場合が多い。
- ※ 公立が第1希望の場合は、併願受験となります。

進学には、費用が必要です

- 公立高校は、無償ではありません。
 - 国からの支給は、授業料分のみで、その他の費用は全額支払う必要があります。
- 私立高校は、初年度に多くの費用が掛かります
 - 入学金や施設拡充費、授業料...と費用がかさむが、その内公立の授業料と同額は、国から支給される。
 - 京都府が、私学助成金を独自に設置し、授業料分を給付する修学資金制度がある。(所得制限あり)